

おお大勝利

平成 27 年度山東サッカー部報第 8 号 (7 月 9 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

無念 3年生の引退試合 勝利で飾れず

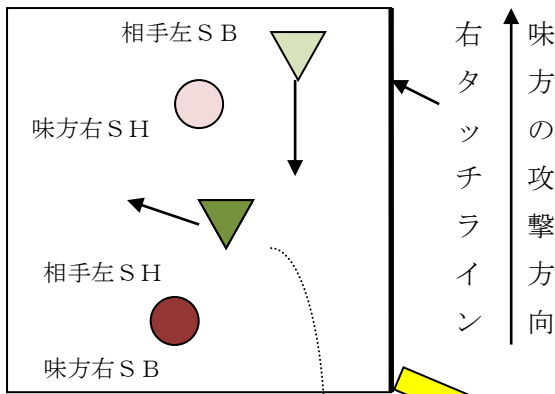
7 月 4 日 (土) 天童第二 (人工芝) にて Y 1 第 7 節が行われました。第 7 節ということは、8 チーム二回総当たりのリーグ戦である Y リーグの、**前期最終節**ということ。といっても、全 14 節の結果で順位を決定するので前期も後期もないのですが、一応山東はそこで多くの 3 年生が引退の節目とするという「伝統」¹があるだけに、7 節は極めて重要。思い返せば、2 年前、ヨシタカの代で初めて県リーグにて第 7 節引退試合を行ったときには、今年と同じ鶴岡東が相手だった。その時は何とか勝ち、3 年生は笑顔で引退を迎えることができた。昨年コウタの代では山商と戦い、いろいろ言いたいことはありますがグッところえつつ、ともかく最後の最後アディショナルタイムで失点してしまい、惜敗し、涙にくれた。今年の相手は一昨年同様鶴岡東。山東と同じく今季 Y 1 に昇格したチーム。これまで得ている勝ち点は 1 で、暫定順位で最下位。対する山東は勝ち点 6 で 6 位。一応山東の方が暫定的に順位が上ですが、直接対決はしたことがないし、第 6 節米沢中央対鶴東では、鶴東の勢いを感じた。やはりこの年代、日々成長しているし、第 6 節から 1 カ月以上空いているので、鶴東の故障者も戻ってきているだろう。**ともかく、厳しい試合となることを覚悟しなければならない。そんな心の構えは、選手にも強調しておりました。もちろんこの試合、Y 1 残留に向けて貴重な勝ち点の争いになるし、そんな星勘定を超えて、3 年生のために負けは許されない。**

いつも通り、清野総監督 (OB 会名誉会長)、岸 OB 会会長、後藤報道局長、そして齋藤 G K コーチがいらっしゃる。もちろん多くの保護者も駆けつけている。いつもより多め。この試合の重要性を当然わかっていらっしゃる。**卒業したての OB アカガワサン (東北大薬学部 1 年) と現在仙台で充電中のシマヌキとクリロンも来てくれた。**彼らの保護者の方も、保護者 OB OG として駆けつけて下さった。そして、**トレーナーの志田さんと有路さん (ともにせりかわ整骨院) もサプライズで (予告なしに) 登場。**試合後聞くに、仕事をいったん抜け出して来て下さったとのこと。有難すぎる。あとは選手が頑張るだけ。

布陣は県総体からちょっとアレンジして、タツルを CB からボランチの位置に上げ、中盤の争いで有利に立とうと工夫。サッチモさんも久しぶりに「定位置」の左 SB で先発。3 年生中心のスタートメンバー。さあ試合開始。試合の入りはどっちつかず。しかし、少しずつ鶴東に中盤を支配され出す。鶴東はテンポの良いパス回しで山東の選手を翻弄。ボランチが溜めを作ってアウトサイドに展開して攻めてくる。SB も積極的にオーバーラップしてくる。**山東は、攻撃の形が作れないばかりか、守備でも混乱。**相手 SB が相手 SH を追い越してきたら (右図 1)、こちらは元々より低い位置にいた味方 SB が相手 SB のマークに付く、すなわち、マークを受け渡すことが重要となってくる (図 1⇒図 2)。だって、ボールが中央付近にある場合、味方 SH はボールを見ていて、背後の相手 SB のオーバーラップに気付かないことが多い。

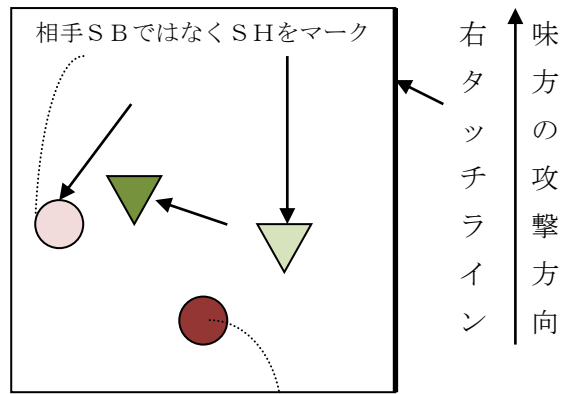
¹ 現役生諸君、この括弧の意味わかりますか？ 国語の問題です (というか日本語の問題)。

<図 1>



S Bと重ならないように中に絞る

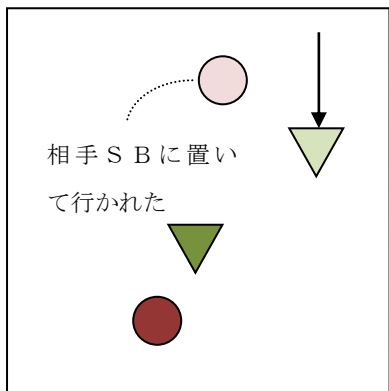
<図 2>



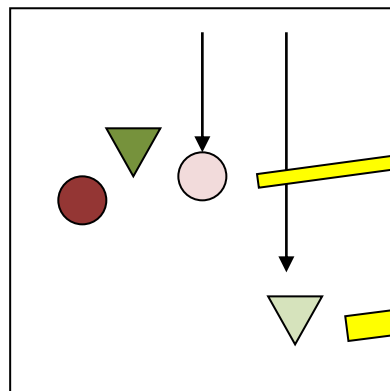
より高い位置を取ってきた相手 SB のマークへ切り換え

ボールは中央 (インサイド) にあると仮定

<図 3>



<図 4>



味方 SH は対応が遅れている (マークに付ききれていない)

相手 SB がフリーでボールをもらえる状況が生まれている

ボールがこのアウトサイドにある場合でも、相手 SB のスタートの方が早く、味方 SH の対応 (戻り) が遅れることはよくある。すなわち、どうしても対応が一瞬遅れる (図 3)。その場合、これからより高い位置 (より相手ゴールに近い位置) を取ろうとする相手 SB に対して、より低い位置 (より味方ゴールに近い位置) にいる味方 SB が対応する方が、当然スムーズに行く (図 2)。その方が、味方 SH が長い距離を走らないで済むという利点もある。要は、局面で相手のマークについて人数を同数にする場合でも、より効率的なマークの仕方がある。山東アウトサイドは、この基本の対応がなっておらず、最後までマンマークで行くものだから (マークを受け渡さないものだから)、鶴東 SB がアウトサイドを攻略すること多し (図 4)。そして、このことと関係して、山東は SH が低い位置まで下がらされている結果、アウトサイドで鶴東 CB が自由にボールを持ち上がってくる。図 4 のような状況を作られても、**ボール保持者にしっかりアプローチをして自由にパスさせなければ、フリーになっている選手 (相手 SB) を使われることもない**のだが、いろんな意味で山東のディフェンスが後手に回っている。もちろん、それだけ、**鶴東のボール回しが正確かつ素早かった**ということでもある。**そんな混乱の 15 分の締めくくりは、DF のバックパスの対応を誤った GK が相手 FW にボールを掻っ攫われるフリーによる失点。我々が GK サブロー、痛恨のミス。0 対 1。**もちろん、まだまだ時間がありますので、まだ焦る状況にないが、内容が付いてこない中での失点なので、去年の県総体一回戦鶴南戦のような、重たい雰囲気立ち込める。その後も、山東 DF の足元のレベルの低さを見透かすように、鶴東が前線からガンガンプレッシャーをかけてくる。それに慌てふためき、山東 DF からのパスがことごとく相手に渡る。といった形で、ボールの収まるタツルを全然使えない前半は 0 対 1 で折り返す。

正直、ショートカウンターからサイドを崩されることしばしば。**クロスさえ合わされれば、**

3失点くらいしてても不思議ではなかった。そんな2分8分、よく見ても3分7分の前半。「前半の展開はワンサイドゲームだったが、それは実力を正確には反映していない。君たちは互角に戦えるはずだ」というようなメッセージを、選手にも自分にも言い聞かせる。そして、股関節周りが固く、その部位の痛みが慢性化している魂の男ワタコーを右SBで投入。「**鋼の股間**」のワタコーを投入して、最終ラインの活性化を図る。左SBもメンバー変更。

さあ、後半行くしかない山東。しかし、なかなか攻撃が活性化しない。FWムンタリは相変わらずスピードで相手に脅威を与えているが、スピードに乗ったドリブルで前進するため、どうしても周りがムンタリに付いていくことができず、また鶴東DFがしっかりチャレンジ&カバーの関係で挟み込んでくるので、ムンタリ、前線で孤立しボールを奪われたりサイドに追い込まれること多し。**ビハインドの状況の山東は、守備でも行くしかない。**ハーフタイムに確認したように、**後ろの状況とか自分のマークとかあれこれ考えすぎず、後方の選手から「行くな（慎重に自分のゾーンを守れ）」と指示がない限り相手ボールホルダーにチャレンジする（ボールを奪いに行く）**山東。か弱き乙女のようにしばしばピッチに倒れこんでいるが、カツミなどは気迫のこもったチャレンジ、アプローチを試みている。ファールがどうしても多いが、ワタコーさんも期待通り魂のプレーをしてくれる。タツルも少しずつボールに絡むシーンも増え、相手を背負った状態から得意のターン&ゴリゴリドリブル（not ゴリラドリブル）をして鶴東ゴールに迫る。**前半よりはましな山東。ただ、鶴東の選手が後半も1枚上手でした。**鶴東DFにアプローチしても、CBなどはかなり正確なロングボールでスピードのあるFWを走らせてくる。鶴東中盤の選手も献身的にボールをはたいては動きなおし、山東の選手がボールに食いつく勢いを逆手に取ってくる。何度も相手にシュートチャンスを与えてしまい、ポストに助けられたり、やはり我々がGKサブローのシュートブロックに助けられたり、失点しないのが不思議な後半。**サブローは前半あのプレーだけ、やらかしましたが、その後5、6点は失点を防いでいる。そんなサブロー様様の試合。やはりサブローのためにも、得点がほしい。**しかし、なかなか決定的シュートは放せず。これはと思うシーンを一つだけ上げれば、鶴東ゴールから見て真中30mくらいの場所で得たFK。山東でFKと言えばあの人。**流れの中でのマンサクシュート²に匹敵するFKを、今年度Y1第2節でぶっ放してしまったカツミ。**かなり期待して見守ると、またしても矢のような直線が鶴東ゴール方向に放たれた。「おっ」と身を乗り出しましたが、ゴール前を固める相手の体に当たってしまい、ノーゴール。試合後、カツミに聞いたところでは、「ボールが鶴東選手の体に当たってなければ入ってました」とのこと。何とも悔しい。最後、3年生8名の中でこれまで最も公式戦の出場時間の短いタロー³を投入。**慣れない左SHでの出場でしたが、炎のスライディングクリアや、積極的なドリブルから好パスを通すなど、非常に印象深いプレーぶりでした。**

結局スコアはそのまま0対1で山東痛恨の敗戦。後半の内容的にも3分7分（良く見ても4分6分）の展開なので、敗戦は仕方ないと言えるが、何と云っても3年生の引退試合。どうしても勝たなかった。もちろん、Y1の残留争いにおいて、大きく後れを取りましたが、この際それはどうだっていい。**やはり、最後の試合は勝ちたかった、勝たせたかった。**試合後、多くの3年生は泣き崩れていました……。ただ、**試合後しばらくした後、1・2年生による3年生への惜別のエール、そしてそれに応える形で皆と握手をする3年生の姿、また、保護者に対して改めて全員で、これまでの高校サッカー生活へのサポートのお礼を述べに行ったシーンを**

² 興味をもたれた方は、山東サッカーOB会HP上で平成24年度部報第5号を検索してみてください。

³ とはいえ、タローは、「やりたいポジションは？」と顧問に聞かれて「審判です」と答えた選手。そして昨年3級審判員の資格を取得した。選手として出場時間が短かったとはいえ、自分の望む方向でピッチに立ち続けたと言えます。

見て、思うような結果は出せなかったけど部活動を通じて人間的に大きく成長してくれたことが実感されました。

引退試合の翌々日の7月6日(月)本校物理室にて**3年生の引退式**が行われました。3年生は独特の言い回しで後輩に対してメッセージを述べていました。以下特徴的なメッセージを記します(発表順)。

サフロー・・・自分の足りないところをしっかりと考えて、自主練習を大切にしてほしい。部室をきれいに使ってほしい(秘訣はゴミ箱を撤去すること)。

スミコ・・・みんなが楽しく練習しているのをうらやましい気持ちで見ている。マネもチームの一員と感ずることができた。

ムンタリ・・・プレーの面でこだわりを持ってほしい。自分の特長を活かしたプレーをしてほしい。自分の体は自分だけのものでないので故障には気をつけてほしい。

サッチモ・・・自分は失敗を恐れてプレー面で消極的になることがあったが、自信を持ってプレーしてほしい。自分の武器を磨いてほしい。Bチームに回っても気落ちせずしっかり頑張れ。

タロー・・・審判を通していろいろな人と出会い、自分のサッカーに対する思いを確認できた。先輩にも後輩にもとにかく周囲に恵まれた高校サッカー生活だった。勉強で忙しいというビハインドを言い訳にせず、逆にプラスにとらえ頑張れ。

カツミ・・・1年生の前半、自分の実力を勘違いしてしまい、後半現実を知った時にモチベーションが落ちたが、先輩に支えられ、この先輩たちを勝たせたいと本気で思った。受け継がれてきた伝統を守り、強い山東を作してほしい。

シャモジ・・・試合で最初のプレーをミスってもメンタル的に建て直せる心構えを試合前からしてほしい。いろんなスポーツから、サッカーと違う発想やサッカーに通じるプレーを取り入れてほしい。

タツル・・・自分のプレーへの指導者の指摘を振り返り、自分のプレーを改善できる選手になってほしい。仲間を大切に。

タイチ・・・自分の中に高い基準を持ち、あるプレーがチーム内練習で成功しても、満足しないしてほしい。練習の時から軽いプレーや凡ミスを許さない雰囲気作りをしてほしい。この点は上の代よりも自分たちの代でうまくできなかった。感謝の気持ちを持ってサッカーしてほしい。

驚くことに、ほとんどの選手が一度退部を考えたことを明かしておりました。それも、サッカーに真剣に取り組んだ証しと前向きに受け止めました(顧問の指導への最後の抗議としてではなく)。また上には少ししか記しませんでした。多くの者が周りに助けられた、という感謝の言葉、仲間を大切にしてほしいとのメッセージを述べておりました。

そして、その日から、**部長ユート、副部長ワタコー、グラマネユータロー&サンペー**の練習が始まり、名実ともに代替わりいたしました。

保護者の皆さま、OB・OGの皆さま、**新チームの船出戦**がすぐ週末に行われます。しかも相手はここまでY1全勝の日大山形。応援よろしくお願ひ致します。

7月11日(土) Y1第8節 日大山形戦 @天童第二 10:00~